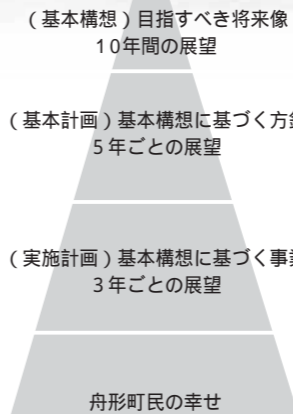


# 新・舟形町基本構想策定に向けて

～舟形町10年間の設計図～

## その3

基本構想のイメージ



「第6次舟形町基本構想」を策定するにあたり、住民の皆さんの意識の動向や行政施策に対する考え方を把握するため、6～7月に全戸対象のアンケート調査を実施しました。また、全町内会などでの意見交換会には、延べ395名の方に参加していただき、多くの想いをうかがいました。

その結果、皆さんの意見から基本構想の「4つの柱」ができました。その4つの柱について行なった11月末のアンケート調査には、70件以上の提言・意見をいただきました。4つの柱とともにその一部を紹介します。



# より具体的な「基本計画」がつくられます

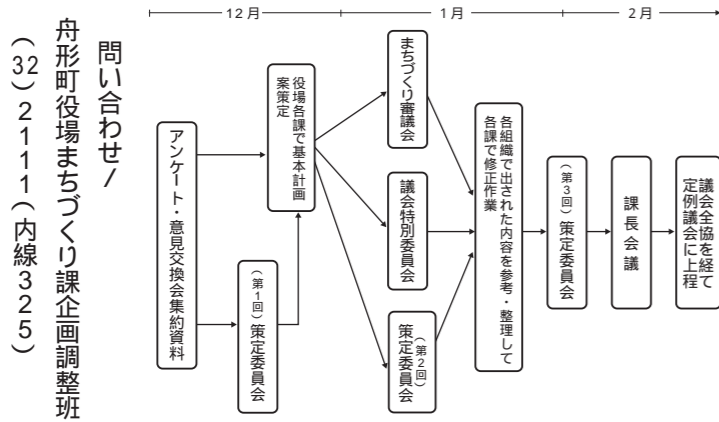


農業、商工業、教育などの幅広い分野から、町民の皆さんの代表25名による、総合発展計画策定委員会」を立ち上げ、基本構想の4つの柱に分かれ、議論をしています。

『皆さんからのたくさんの意見を基本計画にどのように活かしていくか』が委員の方々の役割です。これから最も重要な時期を迎えます。

12月15日に第1回目の委員会を行いました。厳しい財政状況の中、全てを反映することはできませんが、町の活性化につながる事業や費用対効果を考慮しながら精査していくことを確認しました。

なお、今後のスケジュールは次のとおりです。2・3月号の広報でも特集し、「皆さんの意見がどのように活かされているのか」をお知らせします。



## 基本構想の4つの柱 = 『基本目標』

子育て支援の環境が整ったまちにしたい  
保・小・中一貫教育をすすめたい  
健康づくり・体力づくりをすすめたい  
高齢者の社会参加活動をすすめたい  
という想いから  
「子育て・健康・教育の充実したまちづくり」

若者が定住できるまちにしたい  
医療体制充実と疾病予防対策が必要  
安心安全なまちにしたい  
環境にやさしいまちにしたい  
という想いから  
「安心して暮らせる住み良いまちづくり」

地域ボランティア・NPOの組織化を  
自立型地域づくりの推進と福祉のまちづくりを  
女性・若者のためのまちづくりを  
公共施設と民間活力の有効活用が必要  
行政が健全な財政運営を  
という想いから  
「互助・共有・自立による協働のまちづくり」

農林水産業の振興とブランド化が必要  
商工業の振興と企業誘致が必要  
交流人口拡大とグリーンツーリズムの  
推進が必要  
という想いから  
「産業の振興と地域が活性化するまちづくり」

若年層の雇用確保と経済的な底上げが必要。賃金が安すぎる。舟形町独自で恒久的な雇用対策は無理ではないか。最上郡全体で企業を誘致するなどの対策や、県での最上郡重点対策が必要だと思つた。

高齢化社会を迎え、高齢者にとって除雪が一番大変である。除雪機械借上への補助を考へてほしい。

病状に応じた適切な医療を受けられるようにすることが大切。そのためには、町の対応はもとより新庄市・尾花沢市などの協力を受ける必要があると思つた。

若者にとって舟形町には何が足りないのか、どうしたら若者が定住する町づくりができるか、意見交換の場が必要。町職員による担当制を行なって、若者と行政の対話の場を作ってはどうか。

老後、運転できなくなった時に外出する交通機関がとも心配。過疎地区になって家に閉じこもりになるかと思うと不安です。少しでも長く自分の力で楽しめる町づくりを。

農作物を作るだけでなく、作ったものに付加価値を付けていくのが大切。農業者全体が足並みをそろえてやっていくことが重要なのではないか。

工場誘致と農業の活性化が大事。産業振興本部が中心となり、農協や農家と話し合い、減反地を活用した作物を選定し、生産・加工・販売ができれば雇用が生まれる。作物を公募してみてもいいかが。

企業誘致に町全体で取り組み、若者が定住することで、地域が活性化すると信じている。

積雪地域に大規模な工業の立地は楽でない。舟形マツシユルムのような農業企業の育成が望ましいのではないかと。

小国川そして鮎は東日本。この宝をみんなで見守ってほしい。鮎については他県の人にも好印象を持っている。若あゆ温泉も好評です。誇れる2つのものを軸に産業展開できないか。

共働き世代が多い現状では、学校施設などでの延長保育の場を充実させることが大切。町づくりは人づくり、教育(学力)は生きる力。小学校統合と小中一貫教育を推進すること。中学校での補習など学力対策を行い、塾に通わなくても良いように、町独自で財源を活用してはどうか。

子育て支援は現状で十分。一番お金がかかる20歳前後の人に支援が無い。大学生にも町独自で支援が必要ではないか。

高齢者の趣味やスポーツなどの生きがい活動は、寝たきりを防ぐために大変良いことだと思つた。今後も続けてほしい。

舟形町の人口割合は、未成人より高齢者が多い。長年、働いて老後を豊かに暮らせ、生きがいのある生活を送れる町であつて欲しい。介護対策も必要だが、元気な高齢者が楽しく暮らせる町づくりも検討するべき。最低限の手助けをしてあげれば良い。子育てでも健康も教育も自発性がなければ無意味。

ボランティア窓口を役場に置き、広報活動で募る。町民全員が自分に何が出来るかを登録し、その技量を向上させるための講習も行う。また、それに対して町の独自の通貨を発行できないか。

現在の施設を利用しやすい施設に改善し、他町村からも利用者が集まってくる環境づくりを。

20代の若者たちも町が取り組んでいることに積極的に参加できるようにするべき。自立することへの苦勞を町民が共有し、自立するに必要の互助の精神を町民に植え付けることが重要。自立の道を選択してきた検証をするべき。

「最上は一つ」という考え方の人達が数多くいる。市町村合併については、避けて通れないと思つた。

役場のあり方、職員定数削減による人件費抑制などの計画も必要。